



みんなで防ごう土砂災害



はいた〜い。憂鬱な梅雨の季節も峠を越え、夏に向けて気持ちも盛り上がってくる頃となりました。

さて、国土交通省と都道府県では、防災・減災の取組の一環として、国民一人ひとりが土砂災害の防止及び被害の軽減の重要性について認識し、理解が深められるよう、毎年6月を「土砂災害防止月間」として定めています。今月は、梅雨や台風の時期を迎えるにあたり、土砂災害について調べてみました。

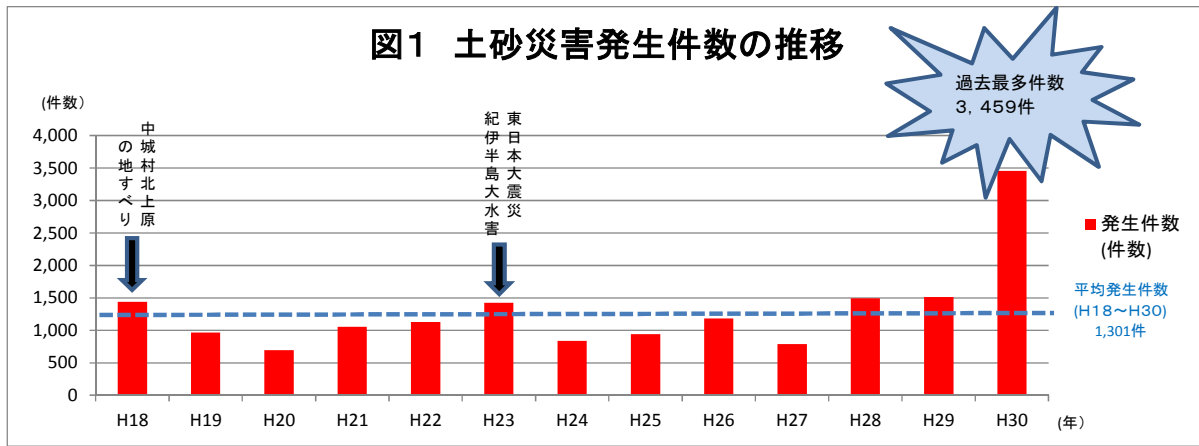
平成18年から平成30年までの全国の土砂災害発生件数の推移を見てみましょう。(表1)(図1)平成30年は広域な範囲で長時間にわたって大雨となり、1道2府41県で3,459件の土砂災害が発生し、昭和57年の集計開始以降過去最多の件数を記録しました。また、平成18年から平成30年までの年平均発生件数1,301件の約2.6倍の発生件数となっていることが分かります。



表1 土砂災害の発生件数の被害状況の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
発生件数 (件数)	1,441	966	695	1,058	1,128	1,422	837	941	1,184	788	1,492	1,514	3,459

図1 土砂災害発生件数の推移



次に、平成30年都道府県別の土砂災害発生件数(表2)を見ると、広島県が1,243件と最も多く、愛媛県(419件)、北海道(237件)の順になっており、沖縄県は6件と比較的少ない発生件数になっています。

沖縄県では、全国に比べて土砂災害は少ないですが、平成18年6月に中城村北上原において、長雨の影響で地すべりが発生しました。幸いけが人はいませんでしたが、小屋や車が土砂に押しつぶされ、村道・県道が通行止めになる等、付近の住民生活に影響を及ぼしました。

表2 平成30年都道府県別の土砂災害発生件数

	都道府県	件数	過去10年最多
1位	広島県	1,243件	182件(H26)
2位	愛媛県	419件	58件(H28)
3位	北海道	237件	56件(H26・H28)
4位	山口県	193件	197件(H21)
5位	高知県	171件	122件(H26)
37位	沖縄県	6件	—

表1・2、図1(資料)国土交通省

土砂災害から命を守るためには、日頃からの備えと早めの避難が大切です。

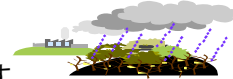
①日頃から住んでいる地域の危険度を把握する

土砂災害のハザードマップ等を参照して、住んでいる場所が土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域等に当たるかどうか、あらかじめ確認してください。

②雨が降り始めたら雨雲の動きや土砂災害警戒情報に注意する

大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時には「土砂災害警戒情報」が発表されます。

雨が降り出したら、雨雲の動きや雨量情報、土砂災害警戒情報に注意しましょう。土砂災害警戒情報は、気象庁のウェブサイトやテレビ、ラジオ等の報道で確認できます。



③豪雨になる前に早めの避難行動をとる

・自治体の避難勧告などの情報に注意して、夜間に大雨が予想される際には、暗くなる前に避難することがより安全です。

・お年寄りなど、避難時に配慮が必要な方がいる場合は、移動時間を考えて早めの行動を心掛けましょう。

・豪雨などでどうしても避難所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の二階以上に緊急避難したりそれも難しい場合は家の中でより安全な場所に避難しましょう。

